

大崎小園遺跡 4

—福岡県小郡市大崎所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第 313 集

2017

小郡市教育委員会

＜序 文＞

小郡市は、北部・中南部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベッドタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進行しつつあります。

今回ここに報告いたします「大崎小園遺跡4」は、宅地造成に伴う道路建設に先だつて小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。遺跡は、小郡市北部の三国丘陵から南へと延びる低台地の縁辺に位置し、宝満川などにより形成された沖積台地上に築かれています。遺跡が所在する大崎区では、弥生時代中期～古墳時代初頭にかけての集落に関する遺跡が多数発見されてきており、小郡市の歴史を解明する一助になっております。今回の調査でも、弥生時代に相当すると考えられる遺構を確認することができ、改めて当時の集落の広がりを確認することができました。この成果が、小郡市内における歴史の全体像を解明する一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者さん、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成29年3月31日

小郡市教育委員会

教育長 清武 輝

＜例 言＞

- 1、本書は、小郡市大崎地内における宅地造成に伴う道路造成事業に伴って、小郡市教育委員会が平成27年度に発掘調査を行った大崎小園遺跡4の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
- 2、遺構の実測、遺構の写真撮影は西江幸子が実施した。
- 3、遺物の実測は西江、製図は久住愛子、洗浄・復元には、佐々木智子、山川清日、永富加奈子、牛原真弓、図面作成に宮崎美穂子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
- 4、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
- 5、本書で用いた標高は、東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
- 6、本書で用いている略号は以下のとおりである。
溝：SD 土坑：SK ピット：P
- 7、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
- 8、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第1章	調査の経過と組織	1
	1. 調査の経緯	
	2. 調査の経過	
	3. 調査の体制	
第2章	位置と環境	2
第3章	遺跡の概要	3
第4章	遺構と遺物	3
	1. 溝	
	2. 竪穴状遺構	
	3. 土坑	
第5章	まとめ	7
	1. 大崎小園遺跡4の遺構評価	
	2. 弥生時代中期における大崎小園遺跡4周辺の遺跡動向	

挿図目次

第1図	大崎小園遺跡4調査地位置図 (S=1/5,000)
第2図	大崎小園遺跡4周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)
第3図	大崎小園遺跡4遺構配置図 (S=1/100)
第4図	1号溝遺構実測図 (S=1/40)
第5図	1号・2号竪穴状遺構実測図 (S=1/60)
第6図	1号・2号土坑遺構実測図 (S=1/40)
第7図	2号竪穴状遺構出土遺物実測図 (S=1/4)
第8図	大崎小園遺跡4の周辺における弥生時代中期の遺跡分布図 (S=1/20,000)

表目次

大崎小園遺跡4出土遺物観察表

図版目次

図版1	①調査区全景 (東側から)
	②調査区全景 (西側から)
	③1号溝南壁土層断面 (北側から)
	④1号溝B—B' ベルト土層断面 (北側から)
	⑤1号溝C—C' ベルト土層断面 (南側から)
	⑥1号溝北壁土層断面 (南側から)
	⑦2号・3号溝完掘 (南側から)
図版2	①1号竪穴状遺構完掘 (南側から)
	②2号竪穴状遺構完掘 (南側から)
	③1号土坑完掘・土層断面 (南側から)
	④2号土坑完掘 (南側から)
	⑤出土遺物

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経緯

大崎小園遺跡4の発掘調査は、小郡市大崎 1131-2、1131-4、1139-1における市有地売却に伴い、小郡市役所財政課より平成26年12月8日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号：14114号）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成26年12月8日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下約60～80cmの深さで遺構が確認されたことから、売却者には開発に先立って埋蔵文化財に関する協議が必要であると回答した。その後、宅地造成事業に先立ち、地権者より平成27年4月10日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号：15004号）が提出され、協議の結果、敷地のうち宅地造成事業に伴う道路造成事業地についての81.84㎡について発掘調査を実施することとなった。

2. 調査の経過

発掘調査は平成27年5月13日から同年5月28日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

- 5月13日 表土剥ぎ開始。（～14日）
- 5月15日 発掘作業員を投入し、遺構検出・掘削開始。
- 5月22日 全景写真撮影。
- 5月25日 遺構実測終了。
- 5月27日 埋戻し。
- 5月28日 現場引き渡し、調査完了。

以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施。

3. 調査の体制

大崎小園遺4の調査の体制は、以下のとおりである。

[平成27年度]

小郡市教育委員会

教育長	清武 輝
教育部長	佐藤 秀行
文化財課長	片岡 宏二
係長	柏原 孝俊
技師	西江 幸子（調査担当）

[平成28年度]

小郡市教育委員会

教育長	清武 輝
教育部長	山下 博文
文化財課長	片岡 宏二
係長	柏原 孝俊
技師	西江 幸子（整理担当）

[発掘作業従事者]

石井京子、小嶋紀子、草場誠子、土井久江
（敬称略）



第1図 大崎小園遺跡4調査地位置図
(S=1/5,000)

第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高 130.8 m）から延びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

大崎小園遺跡 4（1）は、三国丘陵からなだらかに延びる低台地の縁辺部に位置し、本調査地の東側を流れる築地川に向かって低くなる丘陵の東端地に相当する。

大崎小園遺跡は、これまでに 3 回調査が行われており、特に古墳時代初頭から前期と古墳時代後期の集落が確認されている。第 1 次（2：市報告 24 集）・3 次（4：市報告 136 集）調査では、庄内式系土器・古留式系土器といった外来系土器が多数住居跡から発見され、肥後地域に類例をたどることができる土器も出土している。このことから、古墳時代初めの大崎小園遺跡は、他地域との交流が活発であったと想定できる。以下では、大崎区周辺に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を記す。

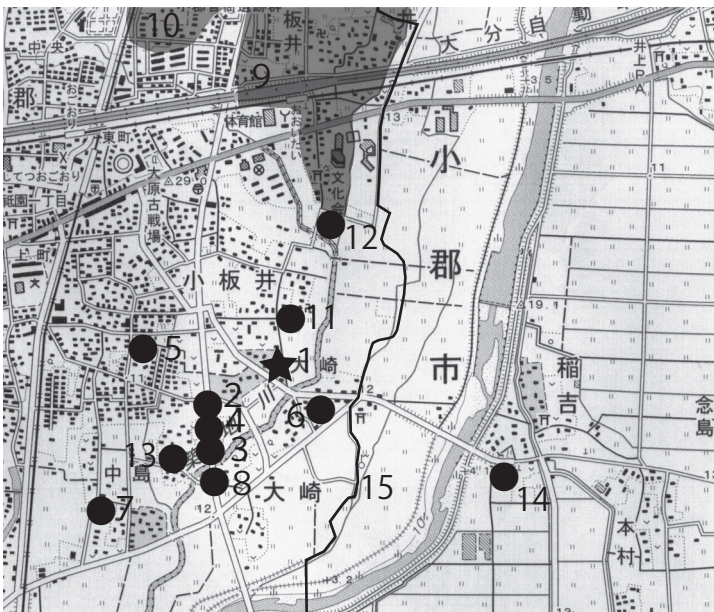
大崎区内において最初に人々の活動が確認されたのは、縄文時代であり、大崎井牟田遺跡（5：市報告 55 集）では集石炉に伴って押型文土器が出土している。

弥生時代になると、中期中頃以降を中心に、大崎遺跡（6：市報告 175 集）、大崎後原遺跡 1・2（7：市報告 247 集・256 集）、大崎中ノ前遺跡 1・2（8：市報告 116 集・123 集）で集落が確認されている。周辺では、中期中頃～中期後半にかけて集落として最も隆盛した小郡・大板井遺跡群（9）が所在し、上記に記した大崎区の遺跡を含め中期中頃～中期末にかけて小板井屋敷遺跡 1（10：市報告 139 集）・5（11：市報告 278 集）や小板井ぐうてさん遺跡（12：市報告 129 集）などの集落が散在的に、微高地上に築かれる傾向があることから、これらの集落は、前期末より後期にかけて連綿と集落が営まれた小郡・大板井遺跡群より派生した集落と考えられる。

弥生時代終末から古墳時代初頭になると、大崎小園遺跡 1・3 で庄内式系土器・古留式系土器といった外来系土器が多数出土し、他地域との交流が想定される。近年、小板井屋敷遺跡 5 において、弥生時代終末に朝鮮半島系土器や仿製鏡を含む住居群を検出しており、この地における弥生時代から古墳時代への転換期における集落像の復元がより一層期待されている。

古墳時代後期になると、大崎小園遺跡 1・2（3：市報告 116 集）・3 で住居跡が確認されており、人々の活動の活発化が想定される。

中世になると館を区切ると思われる大溝が市内各所で確認されているが、大崎区内でも大崎小園遺跡、大崎東柿添遺跡（13：市報告 116 集）で検出されている。周辺には、青磁・白磁が多量に出土し、小鍛冶なども行っていたと考えられている宝満川を利用した港町である稲吉元矢次遺跡（14：市報告 45 集）があることから、宝満川を通じた活発な活動も考えられよう。また、媛社神社（七夕神社）の西側から北側に向かって中世に少なくとも成立したと考えられている旧筑前街道（15）が通っており、中世以降、多くの人々の往来があったと想定される。



以上より、大崎区は弥生時代以降、人々の活動が顕著に表れている地域であり、一つ一つの事象から歴史的な位置づけを行なうことが求められよう。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1：大崎小園遺跡 4 | 9：大板井遺跡 |
| 2：大崎小園遺跡 1 | 10：小郡遺跡 |
| 3：大崎小園遺跡 2 | 11：小板井屋敷遺跡 1・5 |
| 4：大崎小園遺跡 3 | 12：小板井ぐうてさん遺跡 |
| 5：大崎井牟田遺跡 5 | 13：大崎東柿添遺跡 |
| 6：大崎遺跡 | 14：稲吉元矢次遺跡 |
| 7：大崎後原遺跡 1・2 | 15：旧筑前街道 |
| 8：大崎中ノ前遺跡 1・2 | |

第 2 図 大崎小園遺跡 4 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

第3章 遺跡の概要

大崎小園遺跡4は、周知の埋蔵文化財包蔵地の東端に位置し、本調査地の東側を流れる築地川に向かって低くなる丘陵の東端地に相当する。宅地造成のための道路設置工事部分のみの発掘調査であったため、南北約4.8m、東西約18.4mの非常に矮小は範囲である。遺構検出面の標高は11.2m前後、現地表面から約0.8m下る高さで確認している。層位は、地表面より褐灰色土の耕作土が堆積し、その下より灰黄褐色～明黄褐色土が堆積し、さらにその下より遺構検出面であるにぶい黄褐色ローム層を検出した。

出土遺構は、溝3条、竪穴状遺構2基、土坑2基、その他ピットを少量検出した。全体的に攪乱が多く、遺構の深さも浅く、遺構密度も低いことから遺物はほとんど出土しなかった。

大崎小園遺跡4で検出した主な遺構・遺物は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|--------|
| ●遺構 | ●遺物 |
| ・溝 3条 | ・土坑 2基 |
| ・竪穴状遺構 2基 | ・弥生土器 |

第4章 遺構と遺物

1. 溝

1号溝（第4図、図版1）

調査区の西側よりに位置し、南西から北東方向に延びる。現状で全長約6.0m、幅44～50cm、深さ最大約21cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、2層のみの水平堆積の様相を示す。

埋土からは、土師器の小片を1点発見したが図化するに至らなかった。

2号溝（第3図、図版1）

調査区の東側よりに位置し、3号溝に切られ、南北方向に延びる。遺構検出面を下げすぎたため、調査区中央部付近で溝は立ち上がった。現状で全長約2.52m、幅20～28cm、深さ最大約11cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、単層であった。

埋土からは、遺物を発見することはできなかった。

3号溝（第3図、図版1）

調査区の東側よりに位置し、2号溝を切り、南西から北東方向に延びるが、遺構検出面を下げすぎたため、調査区中央部付近で溝は立ち上がった。しかし、調査区東壁には、3号溝に相当する規模の溝の堆積層を確認しており、図面上において3号溝を北東方向に延ばした線と一致した。よって、3号溝は1号溝と同様に南西から北東方向に向かって延びていたことが想定される。現状で全長約1.4m（調査区東壁の溝堆積層までの全長約5.0m）、幅22～32cm、深さ最大約16cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、単層であった。

埋土からは、遺物を発見することはできなかった。

2. 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（第5図、図版2）

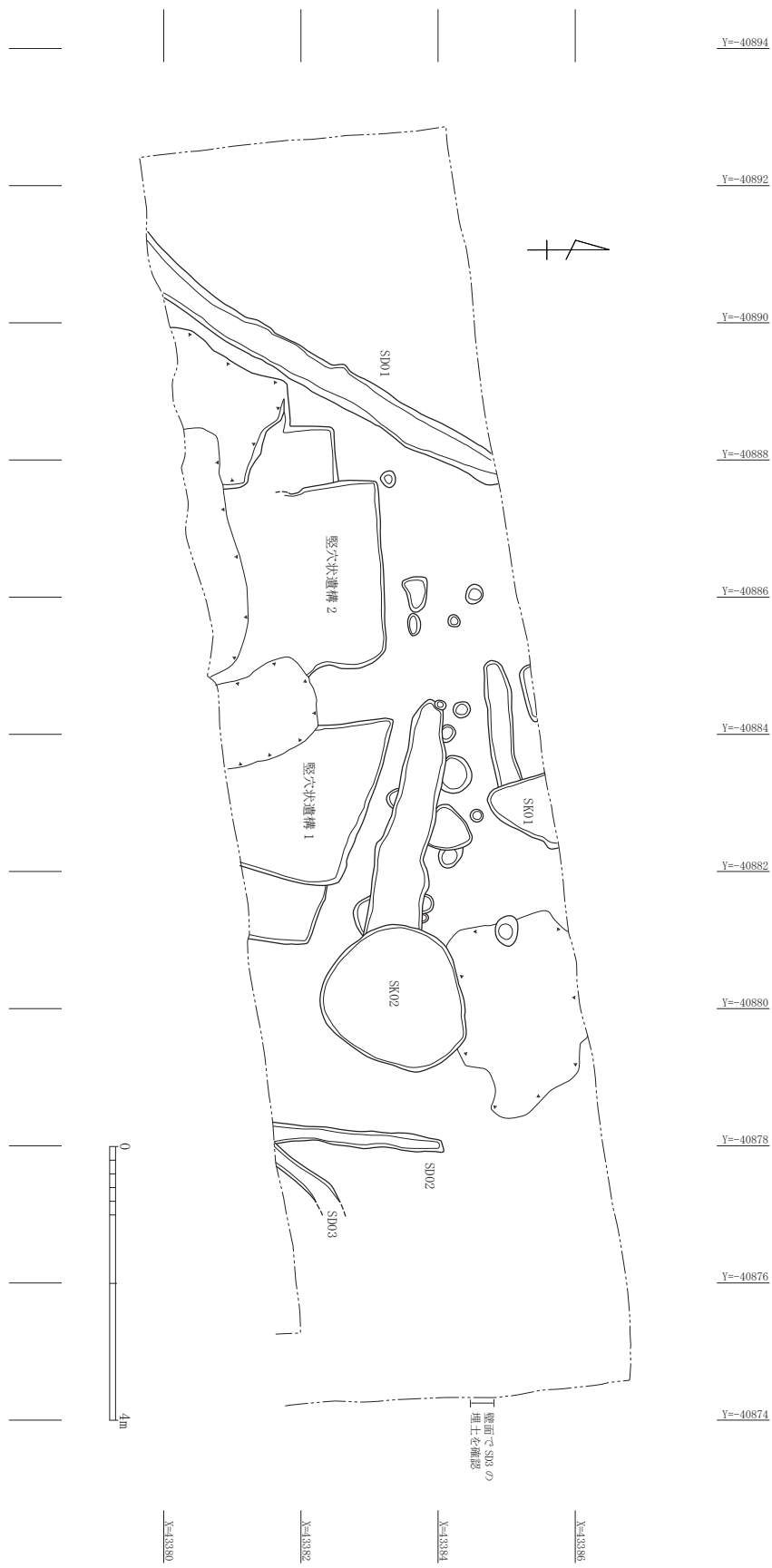
調査区中央部南壁際で検出し、西側を攪乱に切られ調査区外へ延びる。現状の平面形は約2.7m×約2.1m、検出面からの深さは最大約10cmを測る。

埋土からは、遺物を発見することはできなかった。

2号竪穴状遺構（第5図、図版2）

調査区中央部で検出し、南側は攪乱に切られているため立ち上がりは不明である。現状の平面形は約2.7m×約1.2m、検出面からの深さは最大約8cmを測る。

埋土からは、弥生時代中期に比定できる甕の底部片1点、鉄片1点が出土した。



第3図 大崎小園遺跡4遺構配置図 (S=1/100)

出土遺物（第7図、図版2）

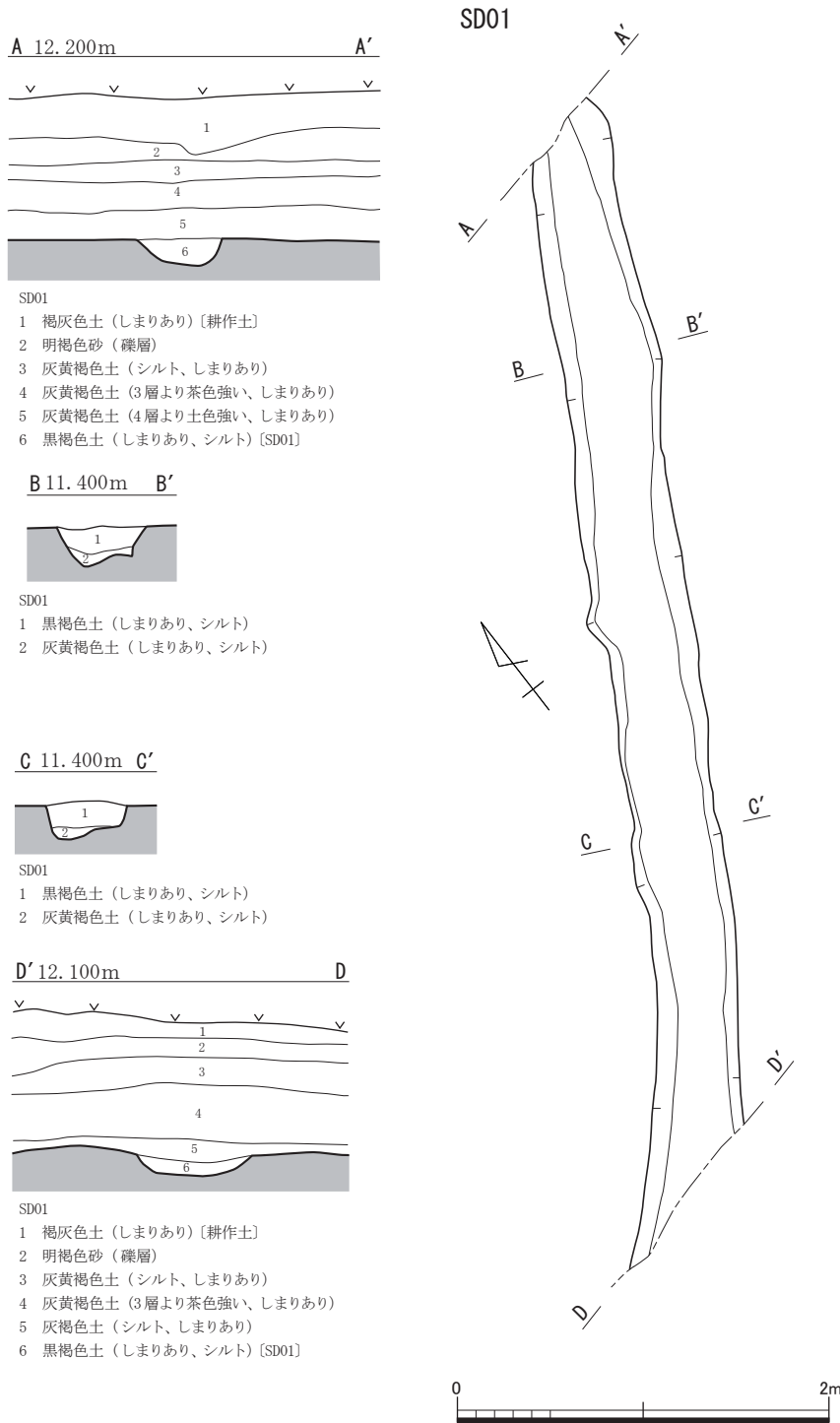
1は弥生土器の甕の底部片である。底部は平底で、外面にススが付着している。

3. 土坑

1号土坑（第6図、図版2）

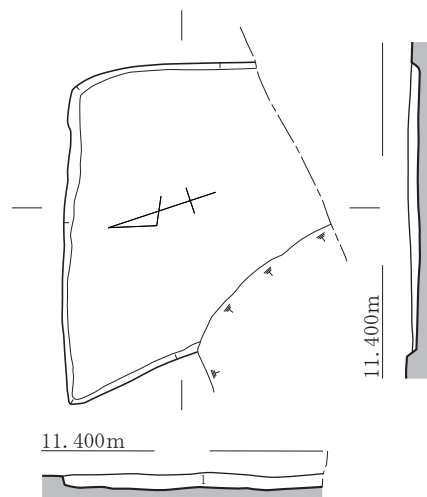
調査区の中央部北端において検出した土坑である。平面形は、現状 90 cm × 100 cm の半円形を呈し、深さは最大 13 cm を測る。

埋土からは、須恵器の胴部片 1 点を発見したが図化するには至らなかった。



第4図 1号溝遺構実測図（S=1/40）

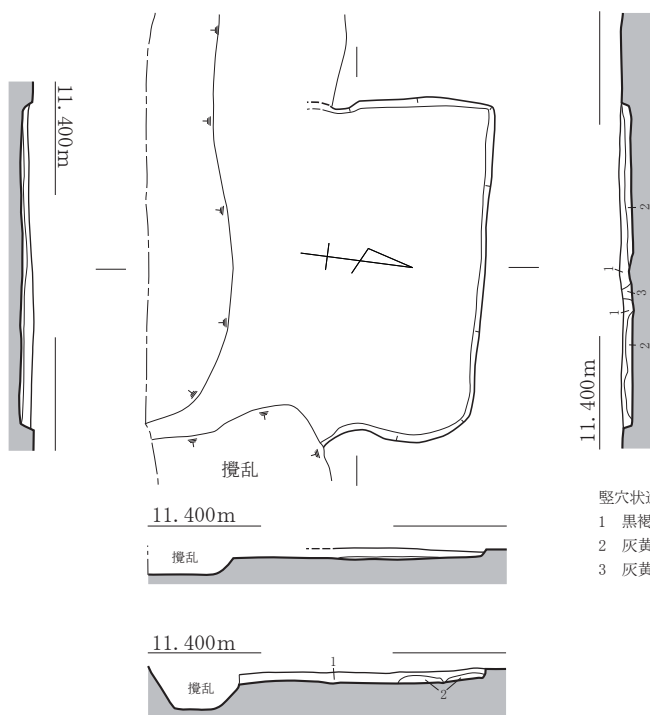
1号竖穴状遺構



竖穴状遺構1

- 1 黒褐色土（灰黄褐色度粒30%含む、シルト、しまりあり）

2号竖穴状遺構



竖穴状遺構2 東西ベルト

- 1 黒褐色土（シルト）
- 2 灰黄褐色土（しまりあり）
- 3 灰黄褐色土（2層より黄色味濃い）

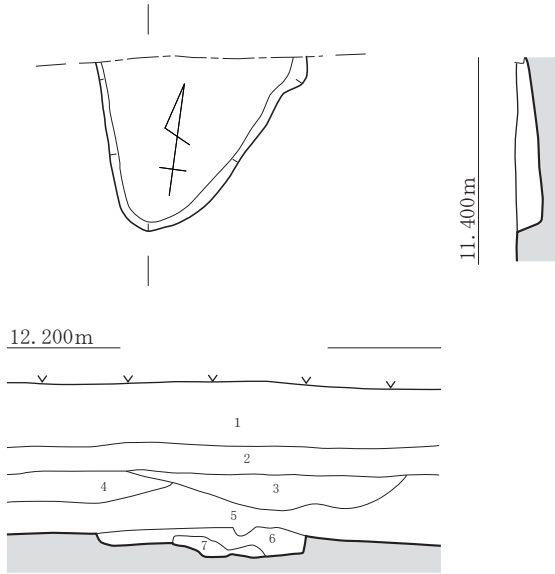
SC02 南北ベルト

- 1 黒褐色土（シルト）
- 2 灰黄褐色土（しまりあり）



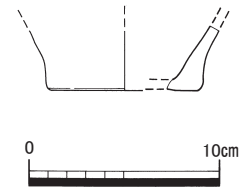
第5図 1号・2号竖穴状遺構実測図 (S=1/60)

SK01



SK01

- 1 褐灰色土（しまりあり）〔耕作土〕
- 2 灰黄褐色土（しまりあり）
- 3 明黄褐色土（シルト）
- 4 灰黄褐色土（2層より茶色強い、しまりあり）
- 5 灰黄褐色土（4層より土色濃い、しまりあり）
- 6 黒褐色土（しまりあり）〔SK01〕
- 7 にぶい黄橙色土（黒褐色土10%混じる、しまりあり）〔SK01〕



第7図 2号竪穴状遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

2号土坑（第6図、図版2）

調査区の中央部において検出した土坑である。平面形は、現状 200 cm × 220 cm の円形を呈し、深さは最大 9 cm を測る。

埋土からは、遺物を発見することはできなかった。

第5章 まとめ

1. 大崎小園遺跡4の遺構評価

今回の調査では、遺構の残存状況が悪く、遺物出土量も少なかったことから、各遺構に対し性格付けを行なうことは困難を極めた。

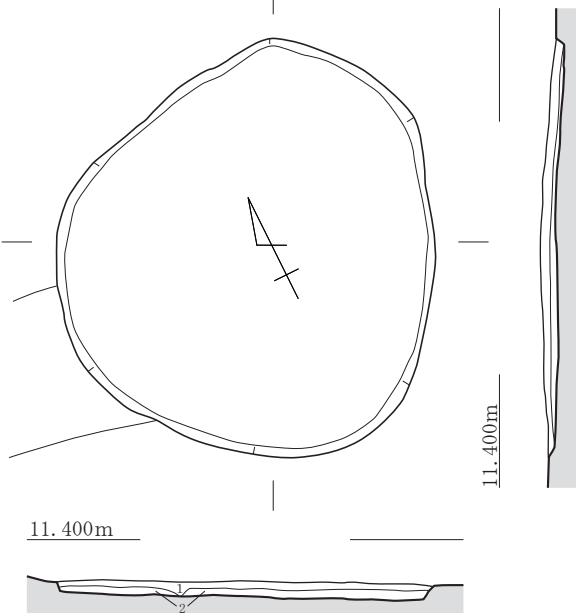
しかし、2号竪穴状遺構より弥生時代中期に相当する甕の底部片を検出したことから、少なくとも弥生時代中期に、この地において人々の活動が行われていたと考えられる。

また、本調査地は、現状でも丘陵の東端地に相当し、第8図の弥生時代相当時の地形図でも丘陵の縁辺部であることが確認できる。

2. 弥生時代中期における大崎小園遺跡4周辺の遺跡動向

これまでの発掘調査成果により、本調査地付近において弥生時代における人々の活発な活動が行われていたことがわかっており、特に、中期・後期においてその様子が顕著に窺い知ることができる。以下では、今回の調査で遺物を確認できた弥生時代中期における周辺遺跡の動向を考察し、本遺跡の位置づけを行いたい。

SK02



SK02

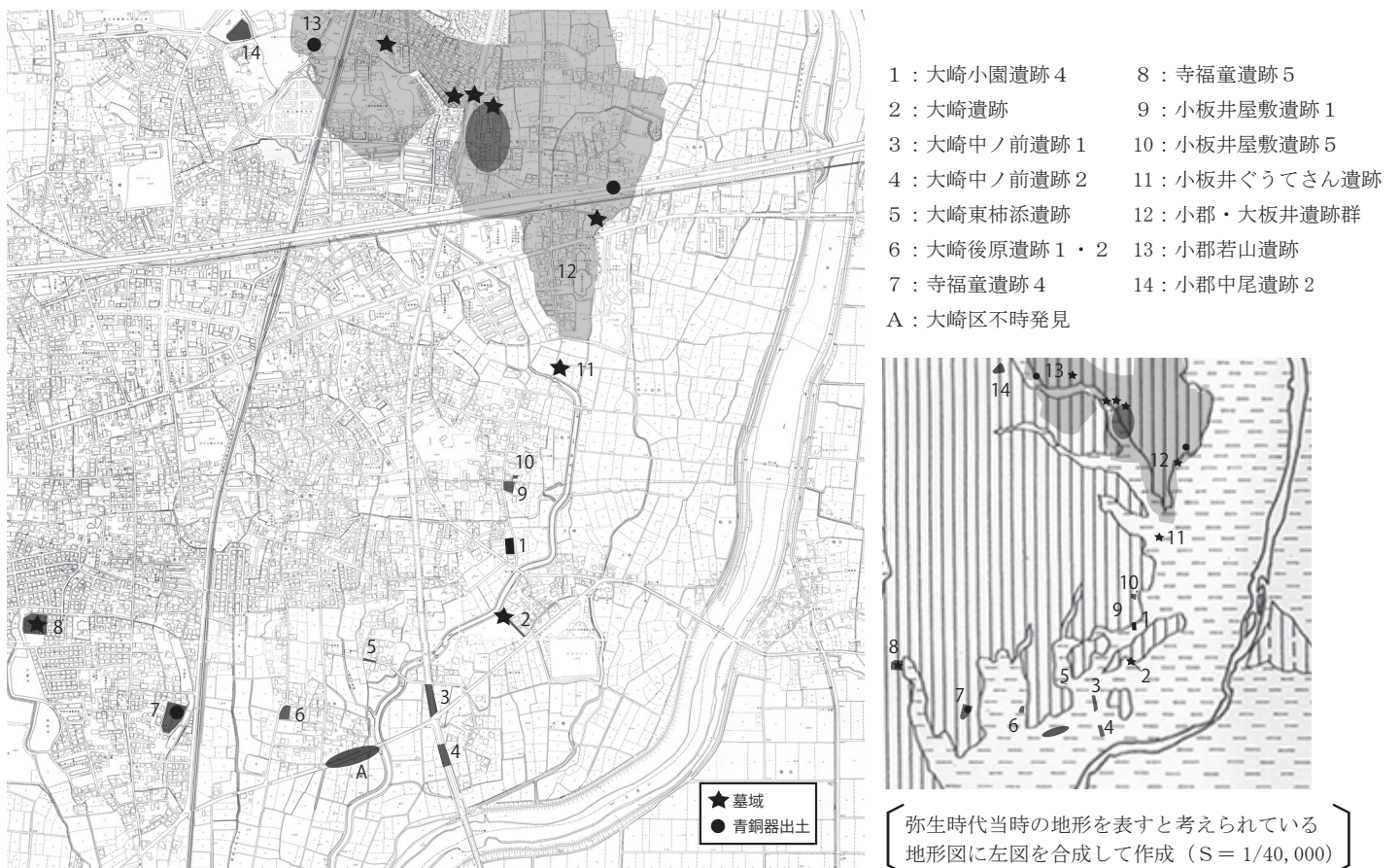
- 1 黒褐色土（しまりあり）
- 2 黒褐色土（黒褐色土20%混じる、しまりあり）



第6図 1号・2号土坑遺構実測図 (S=1/40)

本調査地付近の弥生時代中期は、小郡市を代表する小郡・大板井遺跡群が最盛期を迎えている。小郡・大板井遺跡群は、弥生時代前期中葉より集落活動が確認されており、その後、中期に向かって連続と継続して集落が築かれている。そして、弥生時代中期中頃～後半に最盛期を迎え、第8図で楕円状に濃く塗っている範囲では、環濠や多数の祭祀土坑、及び、大型住居が検出されており、集落の中心地が存在したと考えられる。弥生時代中期の大型住居は、小郡遺跡や小郡若山遺跡でも発見されており、また、大板井遺跡では銅戈7口、小郡若山遺跡では弥生時代中期前半後葉に相当する多鈕細文鏡2枚が出土していることから、まさに、当時の拠点集落とも考えられる大きな集落が存在したことがうかがい知れる。小郡・大板井遺跡群を中心とした集落が急激に形成されたためか、小郡・大板井遺跡群の最盛期よりやや時代が新しい弥生時代中期後半～後期初頭を中心とする遺跡が、小郡・大板井遺跡群の南側で確認されている。具体的には、小板井屋敷遺跡1・5、大崎中ノ前遺跡1・2、大崎後原遺跡1・2で集落活動が、小板井ぐうてさん遺跡、大崎遺跡、寺福童遺跡5で墓域が確認されている。第8図では、ほとんどの集落が中位段丘状に立地しているが、この周辺は宝満川とその支流である築地川の氾濫によって遺跡の立地する河岸段丘が部分的に浸食されていることが指摘されていることから、大崎中ノ前遺跡は、当時は中位段丘状もしくは微高地であった可能性が考えられよう。弥生時代中期後半は、社会構造も変化し、分村していったことが様々な研究成果で指摘されていることから、第8図で記した遺跡は、小郡・大板井遺跡群における人口増加・生産活動活発化に伴う分村の結果、築かれていった集落と考えられよう。また、寺福童遺跡4では、中期後半～後期前半に一括埋納されたと考えられている銅戈9口が発見されていることから、小郡・大板井遺跡群南側の人々の活動は非常に広域であったと想定される。

本調査地は、ちょうど中位段丘状の縁辺部に位置しており、小郡・大板井遺跡群及び、その南側に広がる人々の活発な活動領域の東端にあったことが想定される。残念ながら遺構の削平状況が著しかったことから、遺構の性格付けまではいたらなかったが、弥生時代中期における人々の活動領域を確認できたことは、今後の調査成果の積み重ねから研究していく際において、非常に大きな成果となると言えよう。小郡・大板井遺跡群の性格付けを行なう上で、非常に重要な位置に所在することから、今後の調査研究が期待される。



第8図 大崎小園遺跡4の周辺における弥生時代中期の遺跡分布図 (S=1/20,000)



①調査区全景（東側から）



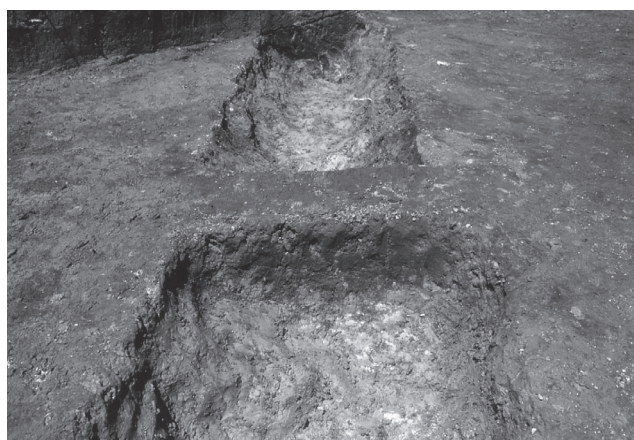
②調査区全景（西側から）



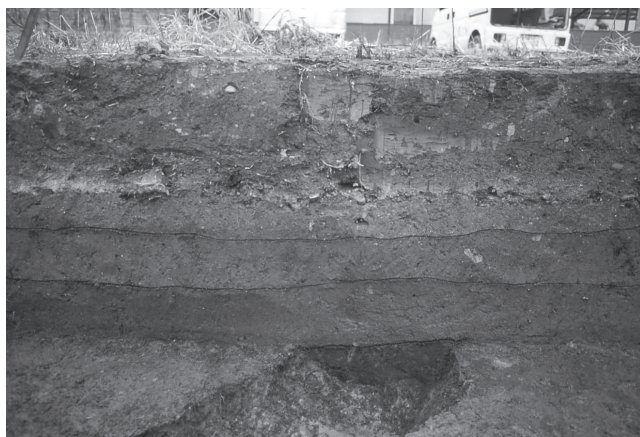
③1号溝南壁土層断面（北側から）



④1号溝B-B' ベルト土層断面（北側から）



⑤1号溝C-C' ベルト土層断面（南側から）



⑥1号溝北壁土層断面（南側から）



⑦2号・3号溝完掘（南側から）

図版 2



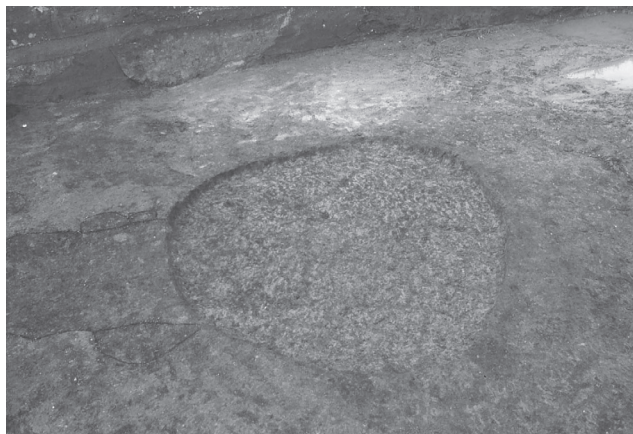
① 1号竪穴状遺構完掘（南側から）



② 2号竪穴状遺構完掘（南側から）



③ 1号土坑完掘・土層断面（南側から）



④ 2号土坑完掘（南側から）



⑤ 出土遺物

出土遺物観察表

1. 土器

法量=高、器高、底、底径 器種=弥、弥生土器

挿図 番号	図版 番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
7図	2-5	2号竪穴状 遺構	弥・甕	底:(8.1) 高:3.4	外:灰白(2.5Y8/2) 内:灰黄(2.5Y7/2)	2mm以下の微砂を やや多く含む	やや劣	外:磨減 内:磨減	胴下~底約 1/4	底面外面にスス付着。

報告書抄録								
ふりがな	おおざきこぞのいせき							
書名	大崎小園遺跡4							
副書名	福岡県小郡市大崎所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第313集							
編著者名	西江 幸子							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在位置	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 TEL0942-72-2111							
発行年月日	平成29年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
おおざきこぞの 大崎小園 いせき 遺跡4	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 おおざき 大崎	40216		33° 23' 25"	130° 33' 37"	2015.5.13 { 2015.5.28	81.84 m ²	道路新設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
大崎小園 遺跡4	集落	弥生時代		溝 竪穴状遺構 土坑 ピット		弥生土器		
要約	今回の調査では、遺構の残存状況が悪く、遺物出土量も少なかったものの、弥生時代に相当すると考えられる遺構を検出した。これまでの発掘調査成果により、大崎区、及び、大崎区周辺では、小郡市を代表する弥生時代の遺構を多数検出しているが、今回の調査成果よりその広がりを確認できたと言えよう。							

大崎小園遺跡4

小郡市埋蔵文化財調査報告書第313集

平成29年3月31日

発行 小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡255-1

印刷 株式会社 四ヶ所

福岡県朝倉市馬田336

